



辨得まはしむ
 素い相澄の成し
 道徳の
 ありし由は菜の
 きりもりえの道業
 少探元より
 中若素より半生
 相澄し
 つまここの法を
 七初トつ
 年
 本年
 素の
 何



何の... 愧... 林氏... 且... 頃... 四月... 直... 今... 亦... 才... 失... 客... 月... 床... 人... 夫...
何の... 愧... 林氏... 且... 頃... 四月... 直... 今... 亦... 才... 失... 客... 月... 床... 人... 夫...
何の... 愧... 林氏... 且... 頃... 四月... 直... 今... 亦... 才... 失... 客... 月... 床... 人... 夫...

木におろし不首座
了りし一途念の
了りし別紙不新筆
一筆せしはの山笑え
うはしし海軍の
し平のるるあはく
進呈の任ははし一
後菜のきり遂に終
アトに成るるアトし
みだ残念千かりあ
く下其アトに上
明とけりるるあは
のう活とうあはは
すてはしあはは
物る紅筆のあ
布す

布

昭和九年四月廿

新

幸乃久雄

上野

中野

四月三十

京都市

小山中

新

東京市

本司

本司



此のありしと上らるるものありしと

いひあふ 相法三三十四代のカビ類をこ

想起せしむるよりして、誠：あつこ

けい、うお法は、(伊勢身命語の訳者、海邊

漫、泣部の行。いふ古くうふし、いふ、

昔の古危う法をさふ、いふ、いふ、いふ、

益を請く、いふ、いふ、いふ、いふ、

昔は川がとく、いふ、いふ、いふ、

本間久雄様、いふ、いふ、いふ、

今五、いふ、いふ、いふ、いふ、

東京市本込区 早稲田
早稲田大学文学部教授
本間久雄様

東京市本込区
早稲田
新子

群書類に益、山以勝

お前 小井ツヨシのお許 古典
より近代の文も古閑雅
なり 清興を盡くしるも
有るに玉其音心を忍び
て得たりしに 改念のぬい
づる秋涼の季の入りたるに
中々 冬上りしを忘れず
何卒 合時合懐の心
よりしと申す ぬき

昭和十二年七月十日

新子

本間久雄 承
日 山 稟 承

昭和十二年七月十日

新

本間久雄
日 山 稟 承



東京市 小石川
雑司が谷町 一四四
本間久雄 謹啓

七月十日
東京市 上三島
中溝 承 承
新

新村出 手 栗

中 國 文 庫
新村出

本問文庫
文庫 14
C 90

